

F D 報告書

2020 年度

大東文化大学全学 F D 委員会

目 次

「第1回全学FD研究会」報告	1
日 時：2020年9月3日（木）13:00～15:00	
場 所：Zoomによるオンライン開催	
2020年度前期遠隔授業に関するアンケート結果報告	3
2020年度「卒業時アンケート」報告	15
2020年度各学部・学科FD活動報告	20

2020年度第1回全学FD研究会

「遠隔（オンライン）授業について」

■実施概要・次第

事前配信動画公開 2020年8月26日（水）～
全学FD研究会実施日（Zoom） 2020年9月3日（木）13：00～15：00

- (1)開会宣言 中井睦美全学FD委員会委員長
- (2)学長挨拶 内藤二郎学長
- (3)学生の実態紹介 中井睦美全学FD委員会委員長
 - ・予想される高校までの教育履歴等
 - ・学生アンケート結果報告
 - ・私情教シンポジウム報告
- (4)遠隔授業動画の内容紹介 白井康之学園総合情報センター所長
 - ・動画の内容紹介
 - ・Googleドライブの教材配布について
- (5)質疑応答
- (6)閉会宣言 中井睦美全学FD委員会委員長
- (7)事務連絡 全学FD委員会事務局
 - ・全学FD研究会アンケート回答について
 - ・今後の質問について（manaba掲示板の紹介）
 - ・オープンキャンパスWeb体験授業の公開について

2020 年度 第 1 回全学 FD 研究会

2020 年度前期はコロナ禍のもと多くの教職員が授業のあり方や大学のあり方に悩み、突然のオンライン授業に取り組んでまいりました。おそらく学生も保護者も大変な思いをなさったことと思います。後期もオンライン授業から始まるという事態に直面し、少しでも授業の質を上げたいと考え、全学 FD 委員会では以下のような全学 FD 研究会を学園総合情報センターの協力を得て、開催いたしました。

本研究会は、PC を利用した講義、オンラインでのグループワークによる演習型講義など、さまざまな形態における講義事例を 5 人の先生より動画にて紹介していただき、質疑応答を含むディスカッション形式で実施いたしました。事前に教員からいただいた質問事項に基づき、学園総合情報センター主導で zoom での回答および質疑応答をいたしました。まだまだご質問がある状況でしたが、今回全教員をコース登録した manaba の「全学 FD 研究会コース」掲示板を利用して、引き続き情報を共有していただくことになりました。

また、今回は前期終了後、全学生を対象に「遠隔授業に関するアンケート」を実施し、研究会ではその結果についても報告しました。学生から出た意見によると、課題の多さ、課題を見られる期間の短さ、教員とのコミュニケーション、zoom が途中で切れる問題などが共通しており、教員からの意見では、動画のアップの仕方、オンライン授業のあり方と学生の教育的効果、ハイブリッドタイプの授業方法などが話題でした。

今回の研究会では、専任教員・非常勤教員・事務職員のうち実施日当日にオンラインによる参加が 294 人、後日動画視聴による参加が 138 名でした。また、「全学 FD 研究会コース」に掲載した動画、manaba 及び遠隔授業に関するマニュアル等のコンテンツへの総アクセス数は 9,000 件（2021 年 9 月末時点）を超えました。ご参加いただいた多くの皆様が、後期の講義方針について示唆を得ることができたかと思えます。

開催にあたりご尽力くださった全学 FD 委員会委員の皆様、白井所長をはじめとした学園総合情報センターの皆様、動画作成に協力してくださった宮瀧、静、細田、角田、阿部先生にも御礼申し上げます。

全学 FD 委員会委員長 中井睦美

■全学 FD 研究会コース」2020 年 8 月～9 月に掲載したコンテンツ

- a. 文学部 歴史文化学科 宮瀧交二 先生
「オンライン（オンデマンド方式）で行う『観光歴史学概論 A』の授業」
- b. 経済学部 現代経済学科 角田保 先生
「PC 系オンデマンド講義での気づき(Excel 実習あり)」
- c. 外国語学部 英語学科 静哲人 先生
「オンデマンド動画の中で対面講義を極力再現しようとした語学系・英語教員養成系の授業」
- d. 国際関係学部 国際関係学科 細田咲江 先生
「キャリアデザイン 遠隔授業の実践について」
- e. 社会学部 社会学科 阿部英之助 先生
「Zoom を用いたグループワークの方法について」
- f. 全学 FD 研究会動画（オンデマンド視聴）
- g. 「これさえわかれば使える！manaba（教材配布・お知らせ等）」（株）朝日ネット提供
- h. 「manaba でらくらく！レポート回収」（株）朝日ネット提供
- i. 「実施してみよう！manaba を使った小テスト」（株）朝日ネット提供
- j. 「これであなたも manaba 通！プロジェクト機能」（株）朝日ネット提供
- k. 「知って得する！manaba の成績管理機能」（株）朝日ネット提供
- l. 遠隔授業に関するマニュアル（学園総合情報センター作成）

【学部生対象】遠隔授業に関するアンケート結果

実施期間 : 2020年8月6日(木)～8月20日(木)
 実施方法 : Google フォーム URL を DB ポータルより周知
 回答数 : 3,268 件 / 11,091 名
 回答率 : 29.5%

説明 Q1、Q5、Q9 の授業形態については、以下のとおり分類をしています。

「同時双方向型」

Zoom 等の Web 会議サービスを使用し、ライブで行われる双方向授業

「配信型 (リアルタイム)」

事前に記録された映像や音声などの授業資料を、指定された日時に視聴する一方向の授業

「配信型 (オンデマンド)」

事前に記録された映像や音声などの授業資料を、随時または期間内に視聴する一方向の授業

「課題提出型」

提示された資料を自ら読んで、課題を解く授業

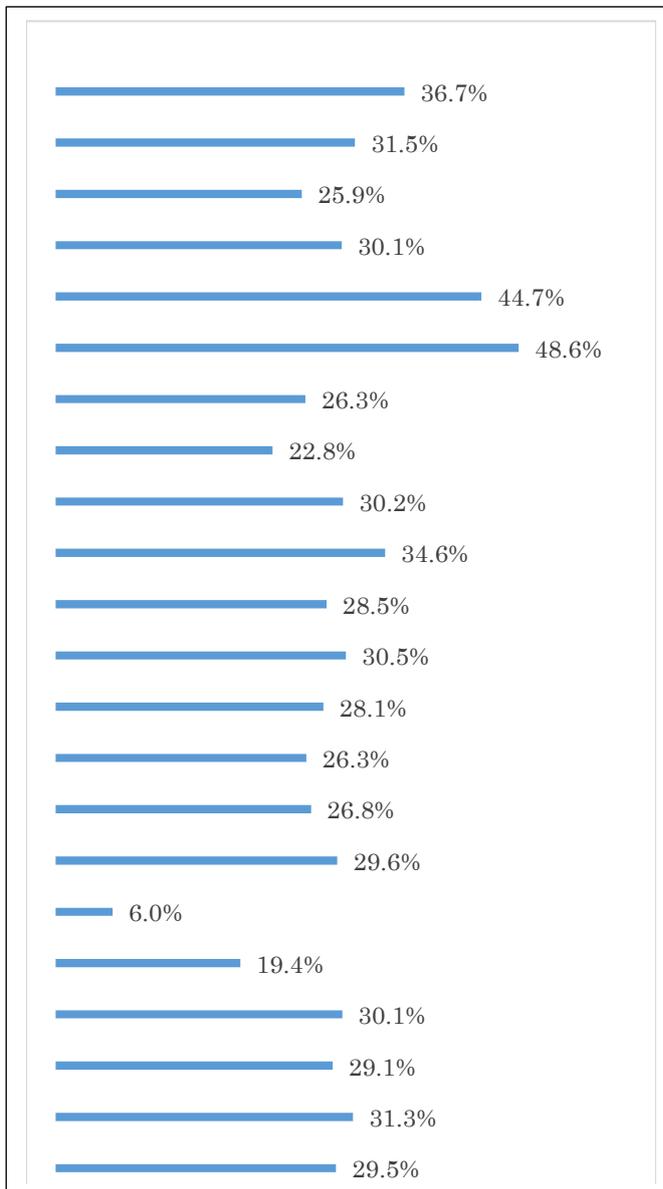
(同時双方向型または配信型の授業があった回に、課題が出されたケースは該当しません。

1 回の授業が課題提出のみのケースが該当します。)

※上記に当てはまらない授業形態があった場合には、Q1-1. で回答をしてください。

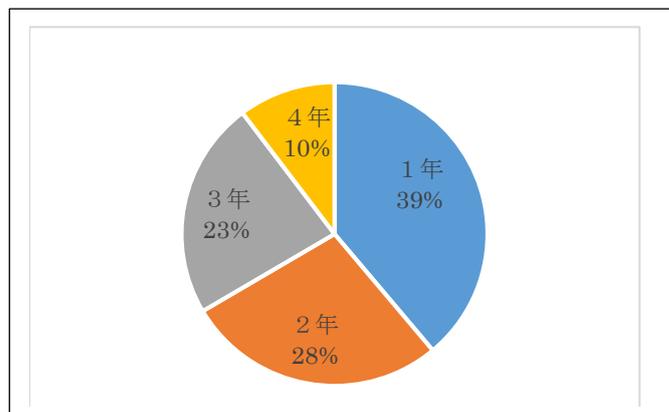
Q 学科の設問

所属学科	学生数	回答者数	回答率
日本文学科	622	228	36.7%
中国文学科・中国学科	267	84	31.5%
英米文学科	514	133	25.9%
教育学科	479	144	30.1%
書道学科	237	106	44.7%
歴史文化学科	294	143	48.6%
社会経済学科	857	225	26.3%
現代経済学科	658	150	22.8%
中国語学科	288	87	30.2%
英語学科	913	316	34.6%
日本語学科	246	70	28.5%
法律学科	905	276	30.5%
政治学科	615	173	28.1%
国際関係学科	410	108	26.3%
国際文化学科	395	106	26.8%
経営学科・企業システム学科	1,480	438	29.6%
環境創造学科	184	11	6.0%
スポーツ科学科	500	97	19.4%
健康科学科	352	106	30.1%
看護学科	299	87	29.1%
社会学科	576	180	31.3%
総計	11,091	3,268	29.5%



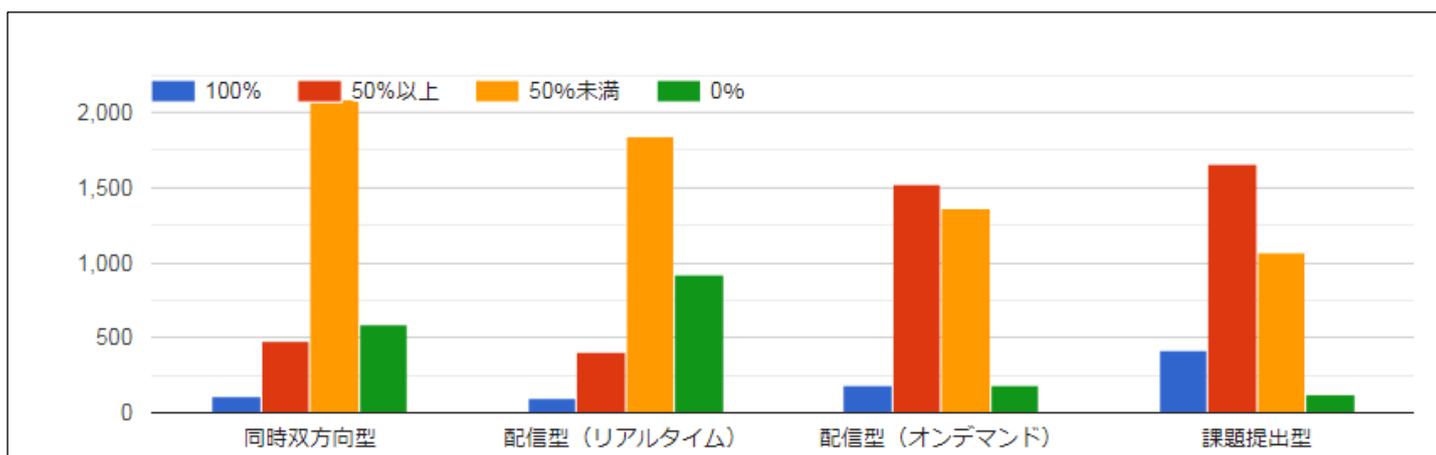
Q 学年の設問

学年	学生数	回答者数	回答率
1年	2,855	1,271	38.9%
2年	2,741	903	27.6%
3年	2,753	758	23.2%
4年	2,742	336	10.3%
総計	11,091	3,268	29.5%



Q1. 以下の授業形態の割合は、受講した授業全体でそれぞれどのくらいでしたか。(おおよそで結構です)

【 選択肢 : 100% / 50%以上 / 50%未満 / 0% 】



1. 同時双方向型

100%	113	3.5%
50%以上	484	14.8%
50%未満	2,086	63.8%
0%	585	17.9%
総計	3,268	

2. 配信型 (リアルタイム)

100%	102	3.1%
50%以上	407	12.5%
50%未満	1,841	56.3%
0%	918	28.1%
総計	3,268	

3. 配信型 (オンデマンド)

100%	190	5.8%
50%以上	1,522	46.6%
50%未満	1,366	41.8%
0%	190	5.8%
総計	3,268	

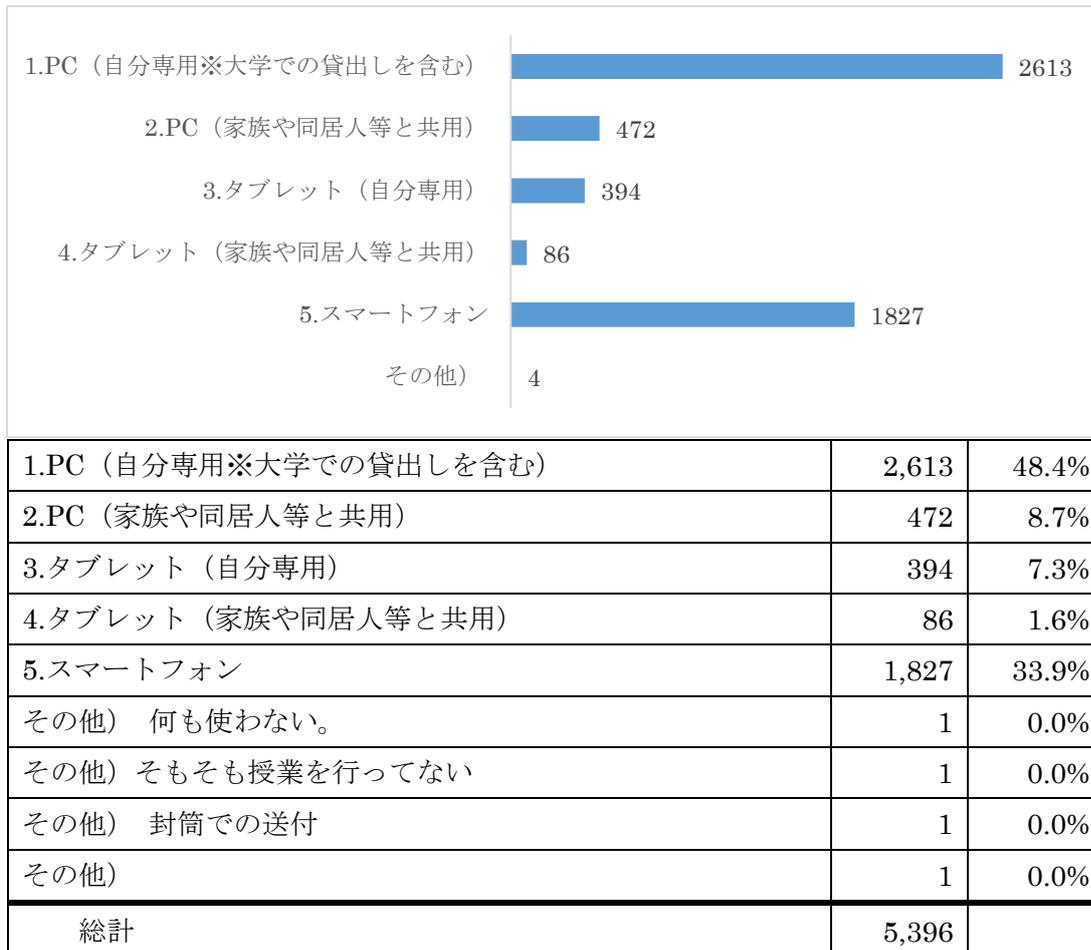
4. 課題提出型

100%	421	12.9%
50%以上	1,662	50.9%
50%未満	1,066	32.6%
0%	119	3.6%
総計	3,268	

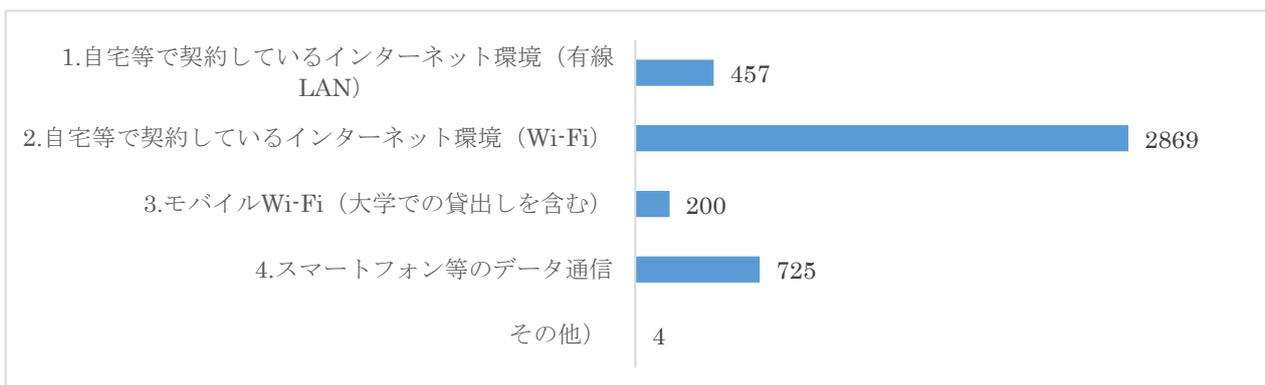
Q1-1. Q1. の選択肢以外で、どのような授業形態がありましたか。

(自由記述) その他 196 件

Q2. 遠隔授業で使用していた媒体を選択してください。(複数選択可)

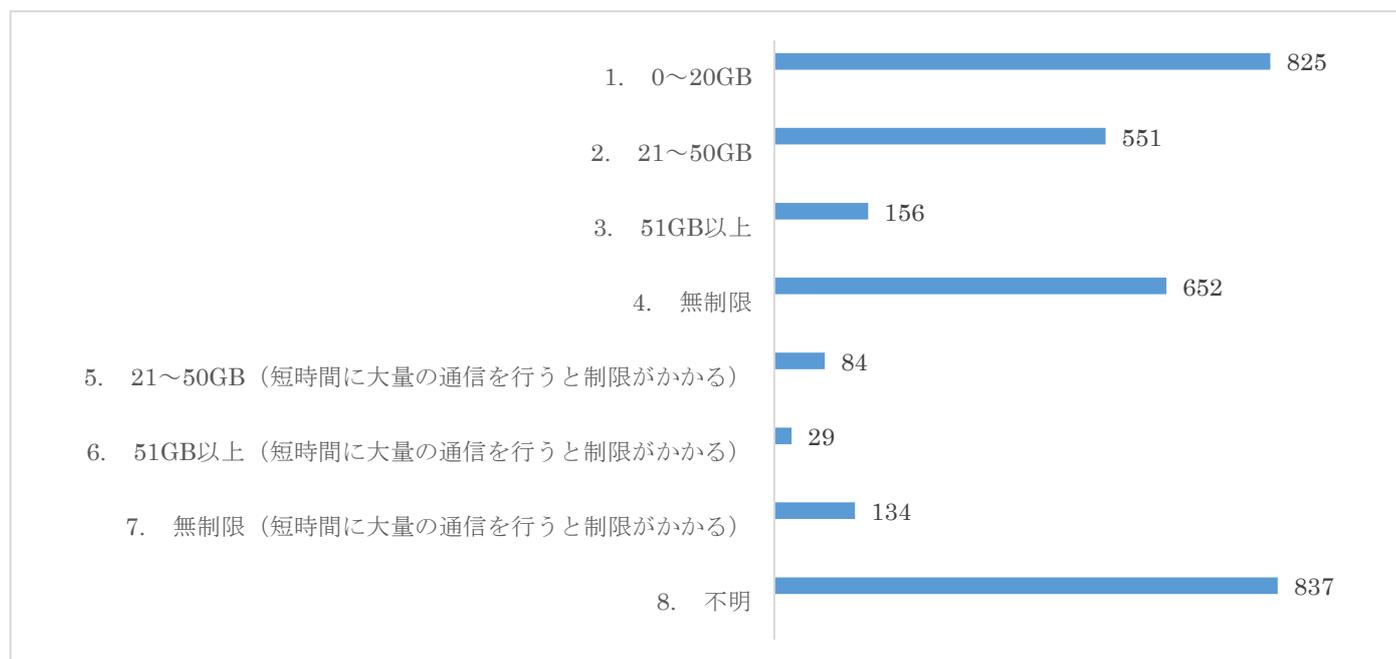


Q3. 遠隔授業の「通信環境」について選択してください。



1.自宅等で契約しているインターネット環境（有線 LAN）	457	10.7%
2.自宅等で契約しているインターネット環境（Wi-Fi）	2,869	67.4%
3.モバイル Wi-Fi（大学での貸出しを含む）	200	4.7%
4.スマートフォン等のデータ通信	725	17.0%
その他）ファミレス	1	0.0%
その他）そもそも授業を行ってない	1	0.0%
不明	2	0.0%
総計	4,255	

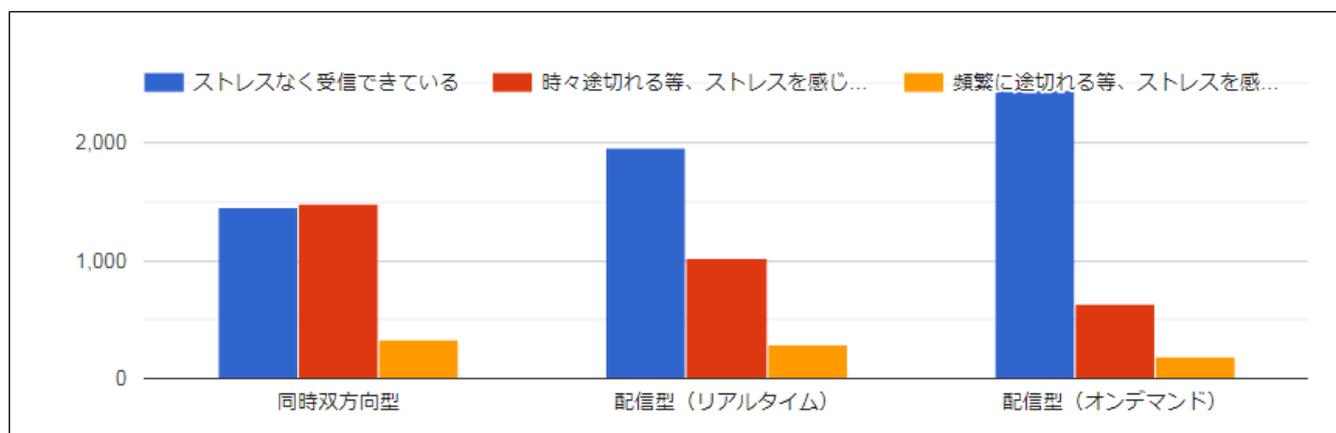
Q4. 現在、1ヶ月に使用できる通信容量は合計で何ギガですか。



1. 0~20GB	825	25.2%
2. 21~50GB	551	16.9%
3. 51GB 以上	156	4.8%
4. 無制限	652	20.0%
5. 21~50GB（短時間に大量の通信を行うと制限がかかる）	84	2.6%
6. 51GB 以上（短時間に大量の通信を行うと制限がかかる）	29	0.9%
7. 無制限（短時間に大量の通信を行うと制限がかかる）	134	4.1%
8. 不明	837	25.6%
総計	3,268	

Q5. 遠隔授業の「通信状況」について選択してください。

【選択肢 : ストレスなく受信できている / 時々途切れる等ストレスを感じることもある
/ 頻繁に途切れる等ストレスを感じている】



1. 同時双方向型

ストレスなく受信できている	1,460	44.7%
時々途切れる等、ストレスを感じることもある	1,483	45.4%
頻繁に途切れる等、ストレスを感じている	325	9.9%
総計	3,268	

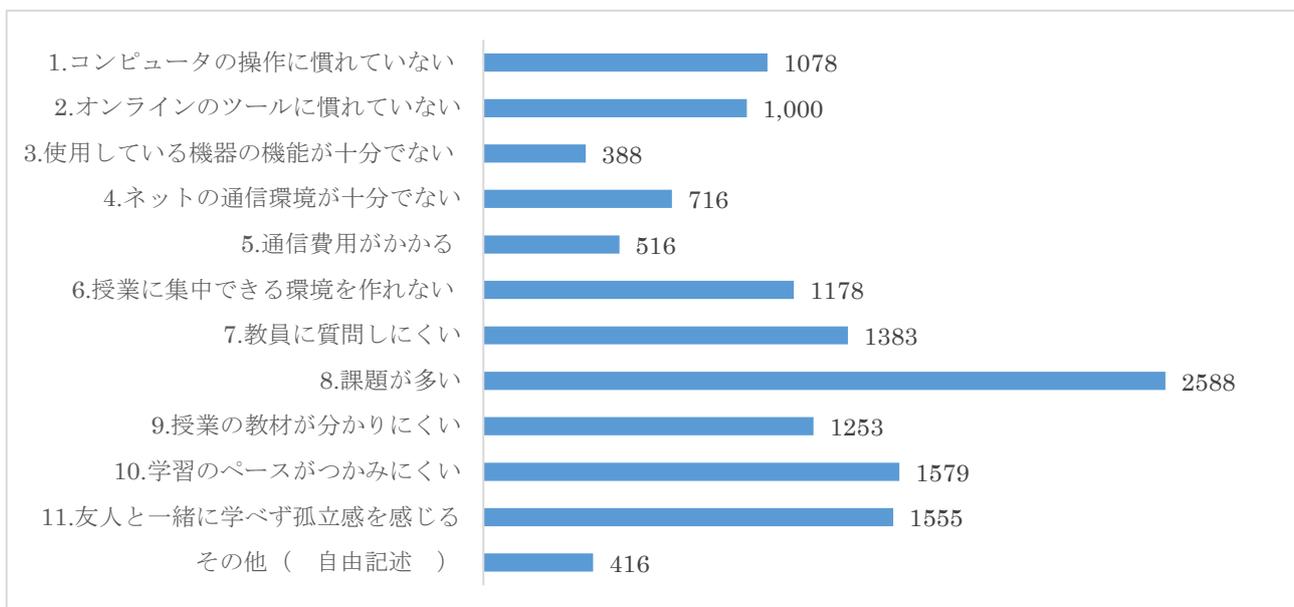
2. 配信型 (リアルタイム)

ストレスなく受信できている	1,955	59.8%
時々途切れる等、ストレスを感じることもある	1,028	31.5%
頻繁に途切れる等、ストレスを感じている	285	8.7%
総計	3,268	

3. 配信型 (オンデマンド)

ストレスなく受信できている	2,447	74.9%
時々途切れる等、ストレスを感じることもある	637	19.5%
頻繁に途切れる等、ストレスを感じている	184	5.6%
総計	3,268	

Q6. 遠隔授業で困っていることについて、選択してください。(複数選択可)

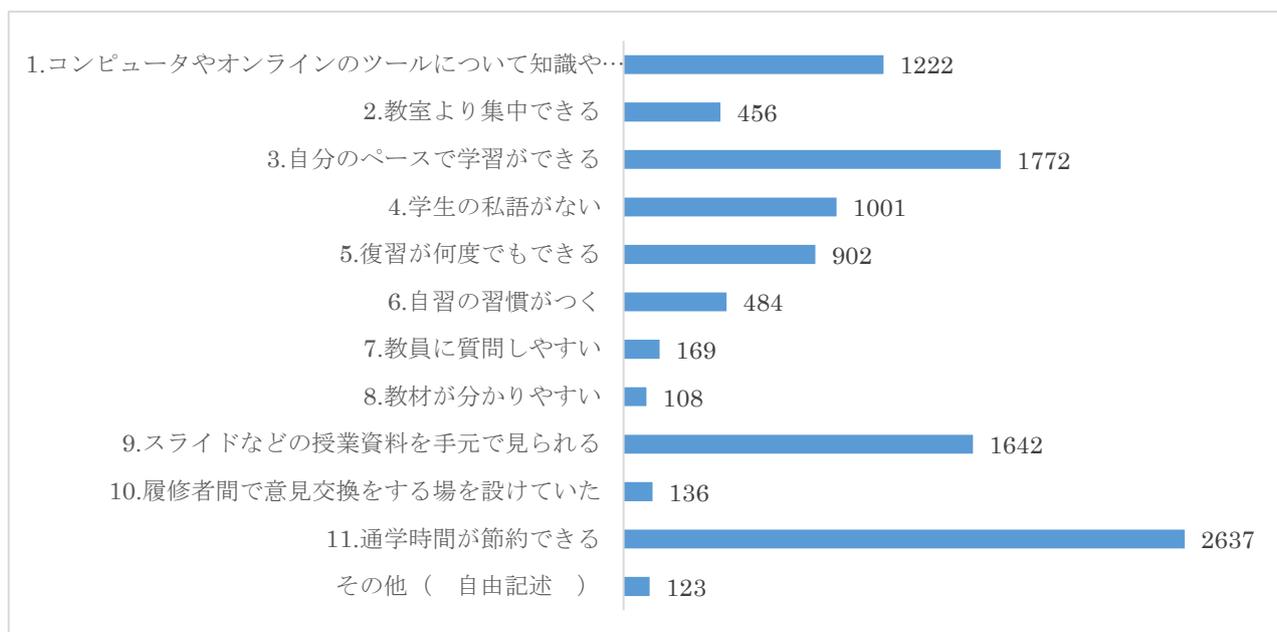


困っていること	回数	割合
1.コンピュータの操作に慣れていない	1,078	7.9%
2.オンラインのツールに慣れていない	1,000	7.3%
3.使用している機器の機能が十分でない	388	2.8%
4.ネットの通信環境が十分でない	716	5.2%
5.通信費用がかかる	516	3.8%
6.授業に集中できる環境を作れない	1,178	8.6%
7.教員に質問しにくい	1,383	10.1%
8.課題が多い	2,588	19.0%
9.授業の教材が分かりにくい	1,253	9.2%
10.学習のペースがつかみにくい	1,579	11.6%
11.友人と一緒に学べず孤立感を感じる	1,555	11.4%
その他 (自由記述)	416	3.0%
総計	13,650	

※その他 (自由記述) のうち特に多かった意見

- ・課題が多い。提出期限が短い。期末にレポートが一斉に出されるので締め切りに間に合わない。最低でも提出期限の2週間前には課題の内容を教えて欲しい。満足のいくレポートを提出することが出来ない。
- ・学生および教員もネット環境の不具合やPCに慣れていない状況で、テストの不備や音声途切れる等の状況にも拘わらず、出席や小テストの評価において考慮されなかった。出席が出来ているか不安。
- ・学習や課題について説明が不足している。課題やテストについてのフィードバックがなく、どこが間違っているのかわからない。教授の伝えたいことがわからない。学んだことが身についている感じがしない。
- ・質問をしても返答がない。教授の連絡先がわからない。
- ・Zoomなどでふざけている学生やミュートにしていない学生の音などがうるさい。
- ・資料の公開期間が短い。(大体が一週間で非公開となる)。資料は公開期限を設けないでほしい。動画は保存すると容量が圧迫するため、非公開にしないでほしい。ダウンロードも印刷もできない資料の公開期間が終了した時とても不安になる。相談できる人がいない。
- ・コピー代やインク代が頻繁にかかる (資料を手元に用意するように指示あり)。

Q7. 遠隔授業で良かったことについて、選択してください。(複数選択可)



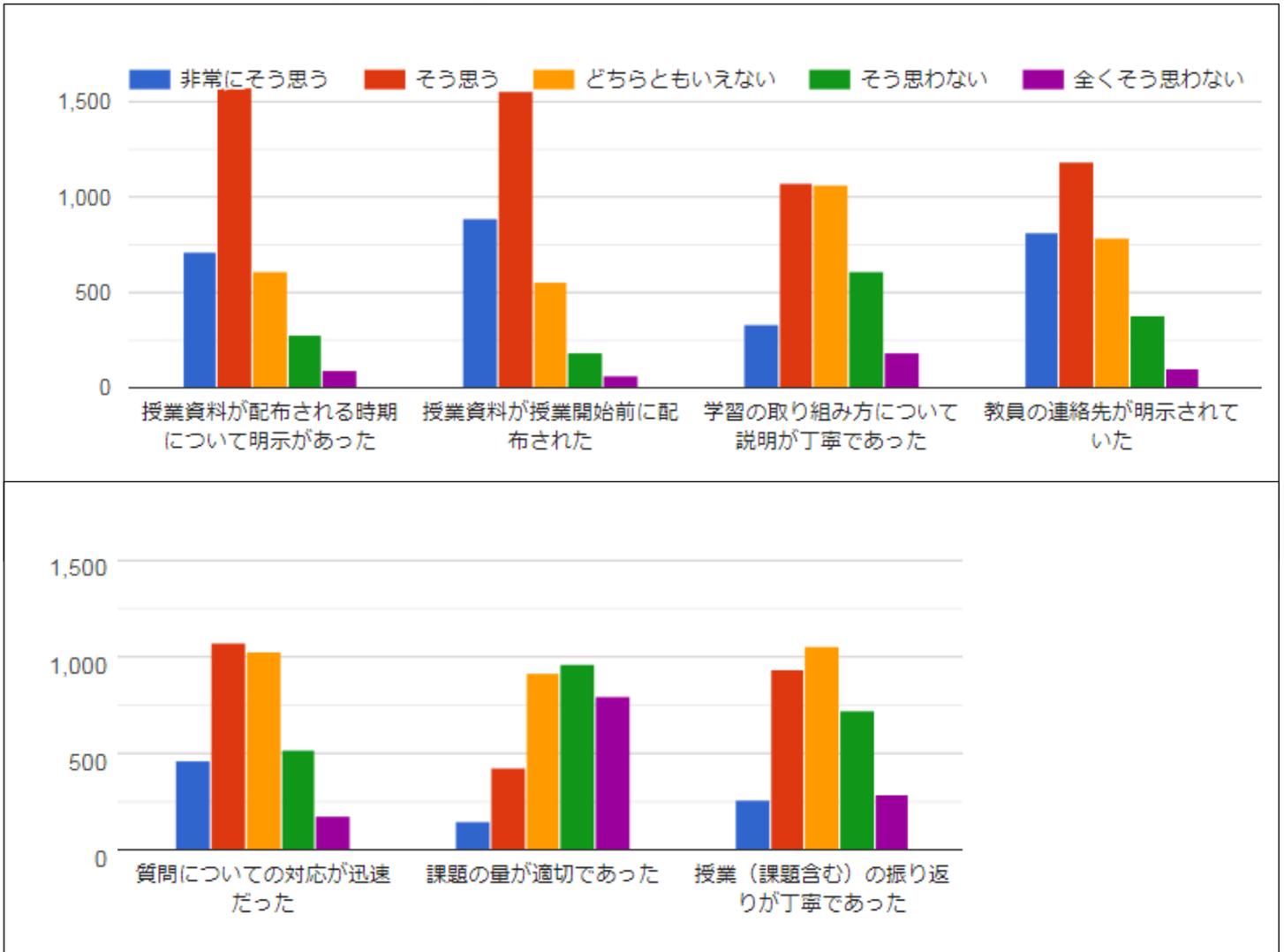
理由	回数	割合
1. コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる	1,222	11.5%
2. 教室より集中できる	456	4.3%
3. 自分のペースで学習ができる	1,772	16.6%
4. 学生の私語がない	1,001	9.4%
5. 復習が何度でもできる	902	8.5%
6. 自習の習慣がつく	484	4.5%
7. 教員に質問しやすい	169	1.6%
8. 教材が分かりやすい	108	1.0%
9. スライドなどの授業資料を手元で見られる	1,642	15.4%
10. 履修者間で意見交換をする場を設けていた	136	1.3%
11. 通学時間が節約できる	2,637	24.8%
その他 (自由記述)	123	1.2%
総計	10,652	

※その他(自由記述)のうち特に多かった意見

- ・新型コロナウイルスにかかるリスクが低い。
- ・通学時間、交通費、食費などのコストが削減。
- ・時間を有効に使うことができる。自分のペースで学習ができるため、以前よりも学習意欲が湧いた。
- ・対面よりもわかりやすい授業もあった。
- ・資料をいつでも見られる。期間制限のない資料や録画については、試験前や課題作成時に再び観ることができた。
- ・教員にチャットを通して個別相談ができる

Q8. 受講した授業全体で、以下の項目について、教員の対応はどうでしたか。

【選択肢 : 非常にそう思う / そう思う / どちらともいえない / そう思わない / 全くそう思わない】



1. 授業資料が配布される時期について明示があった

非常にそう思う	710	21.7%
そう思う	1,576	48.2%
どちらともいえない	610	18.7%
そう思わない	280	8.6%
全くそう思わない	92	2.8%
総計	3,268	

2. 授業資料が授業開始前に配布された

非常にそう思う	894	27.4%
そう思う	1,558	47.7%
どちらともいえない	561	0.0%
そう思わない	190	5.8%
全くそう思わない	65	2.0%
総計	3,268	

3. 学習の取り組み方について説明が丁寧であった

非常にそう思う	333	10.2%
そう思う	1,073	32.8%
どちらともいえない	1,063	32.5%
そう思わない	609	18.6%
全くそう思わない	190	5.8%
総計	3,268	

4. 教員の連絡先が明示されていた

非常にそう思う	815	24.9%
そう思う	1,187	36.3%
どちらともいえない	787	24.1%
そう思わない	377	11.5%
全くそう思わない	102	3.1%
総計	3,268	

5. 質問についての対応が迅速だった

非常にそう思う	463	14.2%
そう思う	1,080	33.0%
どちらともいえない	1,026	31.4%
そう思わない	520	15.9%
全くそう思わない	179	5.5%
総計	3,268	

6. 課題の量が適切であった

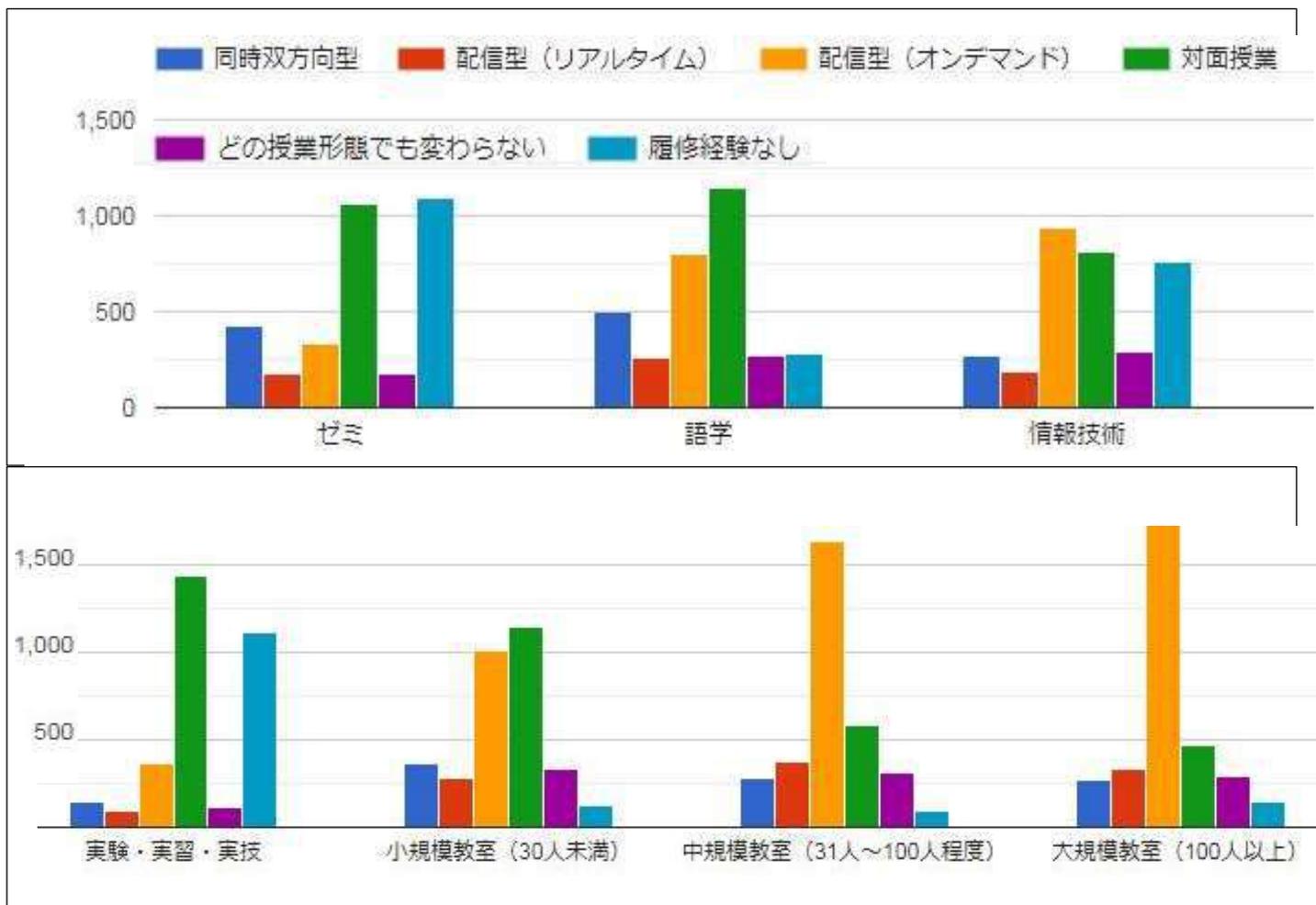
非常にそう思う	149	4.6%
そう思う	430	13.2%
どちらともいえない	921	28.2%
そう思わない	967	29.6%
全くそう思わない	801	24.5%
総計	3,268	

7. 授業（課題含む）の振り返りが丁寧であった

非常にそう思う	258	7.9%
そう思う	938	28.7%
どちらともいえない	1,060	32.4%
そう思わない	725	22.2%
全くそう思わない	287	8.8%
総計	3,268	

Q9. 感染症の影響に関わらず、以下の授業は、どの授業形態がいいと思いますか。

【選択肢 : 同時双方向型 / 配信型 (リアルタイム) / 配信型 (オンデマンド) / 対面授業 / どの授業形態でも変わらない / 履修経験なし】



1. ゼミ

同時双方向型	430	13.2%
配信型 (リアルタイム)	175	5.4%
配信型 (オンデマンド)	330	10.1%
対面授業	1,063	32.5%
どの授業形態でも変わらない	179	5.5%
履修経験なし	1,091	33.4%
総計	3,268	

2. 語学

同時双方向型	504	15.4%
配信型 (リアルタイム)	264	8.1%
配信型 (オンデマンド)	805	24.6%
対面授業	1,145	35.0%
どの授業形態でも変わらない	272	8.3%
履修経験なし	278	8.5%
総計	3,268	

3. 情報技術

同時双方向型	272	8.3%
配信型（リアルタイム）	187	5.7%
配信型（オンデマンド）	937	28.7%
対面授業	812	24.8%
どの授業形態でも変わらない	294	9.0%
履修経験なし	766	23.4%
総計	3,268	

4. 実験、実習、実技

同時双方向型	145	4.4%
配信型（リアルタイム）	92	2.8%
配信型（オンデマンド）	368	11.3%
対面授業	1,435	43.9%
どの授業形態でも変わらない	110	3.4%
履修経験なし	1,118	34.2%
総計	3,268	

5. 小規模教室（30人未満）

同時双方向型	363	11.1%
配信型（リアルタイム）	285	8.7%
配信型（オンデマンド）	1,009	30.9%
対面授業	1,149	35.2%
どの授業形態でも変わらない	334	10.2%
履修経験なし	128	3.9%
総計	3,268	

6. 中規模教室（31人以上100人未満）

同時双方向型	284	8.7%
配信型（リアルタイム）	370	11.3%
配信型（オンデマンド）	1,633	50.0%
対面授業	581	17.8%
どの授業形態でも変わらない	308	9.4%
履修経験なし	92	2.8%
総計	3,268	

7. 大規模教室（100人以上）

同時双方向型	268	8.2%
配信型（リアルタイム）	329	10.1%
配信型（オンデマンド）	1,771	54.2%
対面授業	466	14.3%
どの授業形態でも変わらない	288	8.8%
履修経験なし	146	4.5%
総計	3,268	

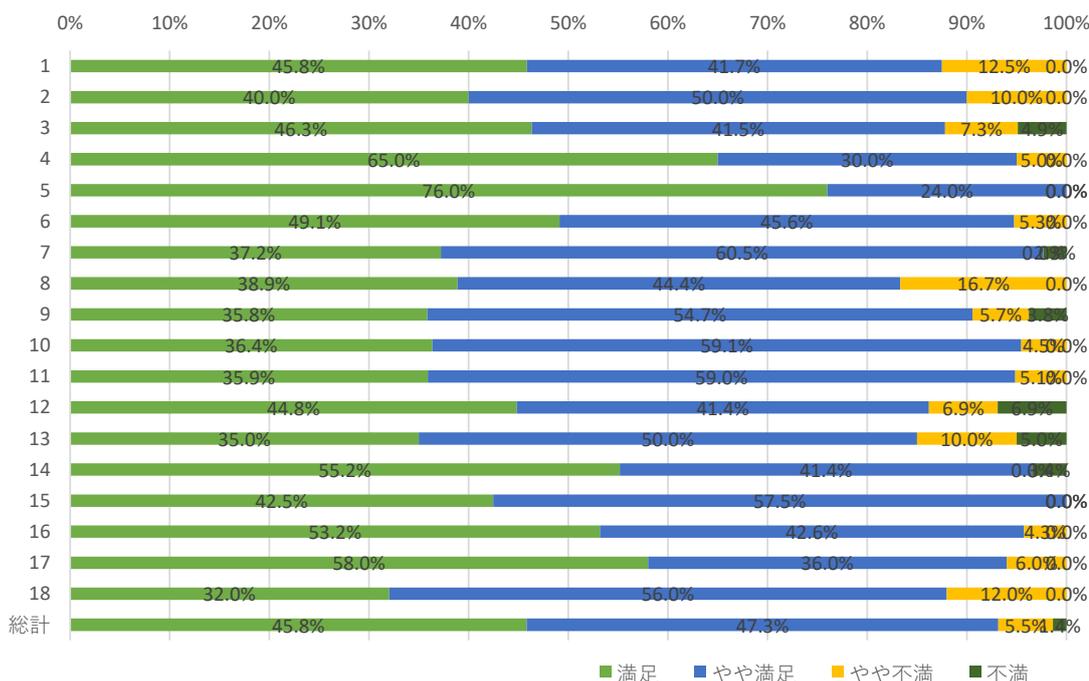
2020年度
「卒業時アンケート」報告

2020年度卒業時アンケート集計結果

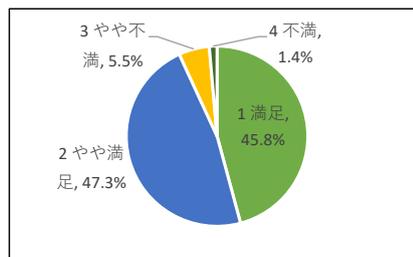
- ◆実施期間 : 2021年3月5日～3月31日
- ◆実施方法 : Googleフォーム
- ◆2020年度卒業生数 : 2,415名
- ◆アンケート回答数 : 659件 (回答率27.3%)

Q1 所属学科別満足度

所属学科		卒業生数	満足		やや満足		やや不満		不満		回答率	
1	日本文学科	132	22	45.8%	20	41.7%	6	12.5%	0	0.0%	48	36.4%
2	中国文学科	58	8	40.0%	10	50.0%	2	10.0%	0	0.0%	20	34.5%
3	英米文学科	120	19	46.3%	17	41.5%	3	7.3%	2	4.9%	41	34.2%
4	教育学科	110	13	65.0%	6	30.0%	1	5.0%	0	0.0%	20	18.2%
5	書道学科	57	19	76.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%	25	43.9%
6	社会経済学科	207	28	49.1%	26	45.6%	3	5.3%	0	0.0%	57	27.5%
7	現代経済学科	153	16	37.2%	26	60.5%	0	0.0%	1	2.3%	43	28.1%
8	中国語学科	69	7	38.9%	8	44.4%	3	16.7%	0	0.0%	18	26.1%
9	英語学科	223	19	35.8%	29	54.7%	3	5.7%	2	3.8%	53	23.8%
10	日本語学科	56	8	36.4%	13	59.1%	1	4.5%	0	0.0%	22	39.3%
11	法律学科	201	14	35.9%	23	59.0%	2	5.1%	0	0.0%	39	19.4%
12	政治学科	130	13	44.8%	12	41.4%	2	6.9%	2	6.9%	29	22.3%
13	国際関係学科	86	7	35.0%	10	50.0%	2	10.0%	1	5.0%	20	23.3%
14	国際文化学科	98	16	55.2%	12	41.4%	0	0.0%	1	3.4%	29	29.6%
15	経営学科	344	31	42.5%	42	57.5%	0	0.0%	0	0.0%	73	21.2%
16	環境創造学科	158	25	53.2%	20	42.6%	2	4.3%	0	0.0%	47	29.7%
17	スポーツ科学科	126	29	58.0%	18	36.0%	3	6.0%	0	0.0%	50	39.7%
18	健康科学科	87	8	32.0%	14	56.0%	3	12.0%	0	0.0%	25	28.7%
総計		2,415	302	45.8%	312	47.3%	36	5.5%	9	1.4%	659	27.3%

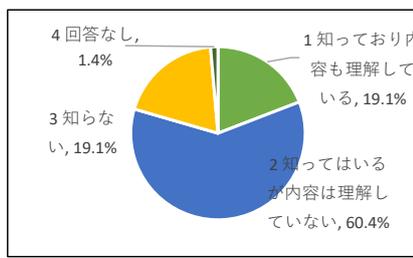


Q3	大学生生活満足度（あなたは大東文化大学に入学して良かったですか。）	集計	
1	満足	302	45.8%
2	やや満足	312	47.3%
3	やや不満	36	5.5%
4	不満	9	1.4%
総計		659	100.0%

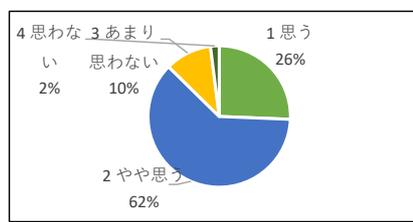


※Q4「Q3の回答の理由を教えてください」の回答は自由記述の為、掲載なし。

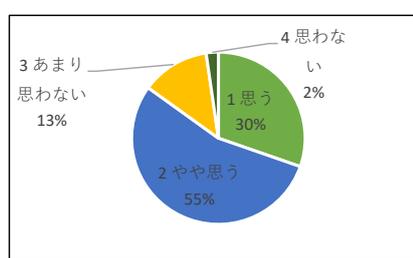
Q5	あなたは本学の「建学の精神」を知っていましたか。	集計	
1	知っており内容も理解している	126	19.1%
2	知ってはいるが内容は理解していない	398	60.4%
3	知らない	126	19.1%
4	回答なし	9	1.4%
総計		659	100.0%



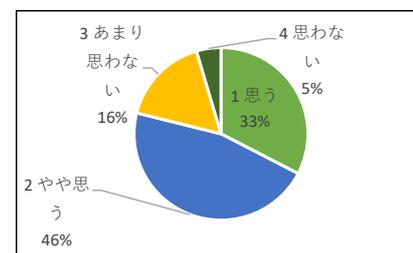
Q6-1	豊かな教養・幅広い知識を習得している	集計	
1	思う	169	25.6%
2	やや思う	407	61.8%
3	あまり思わない	70	10.6%
4	思わない	13	2.0%
総計		659	100.0%



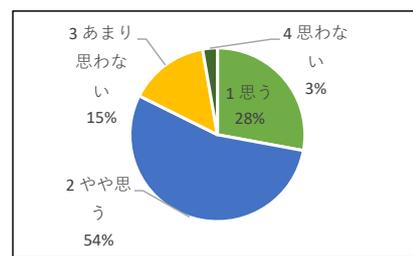
Q6-2	学部学科の専門知識・技能を修得し、活用することができる	集計	
1	思う	200	30.3%
2	やや思う	360	54.6%
3	あまり思わない	84	12.7%
4	思わない	15	2.3%
総計		659	100.0%



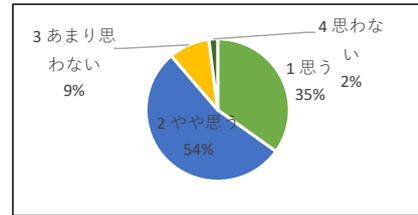
Q6-3	多様性を理解する力（多文化社会に貢献できる国際的な視野と感覚、異文化への共感的想像力やコミュニケーション能力）を身につけている	集計	
1	思う	215	32.6%
2	やや思う	305	46.3%
3	あまり思わない	109	16.5%
4	思わない	30	4.6%
総計		659	100.0%



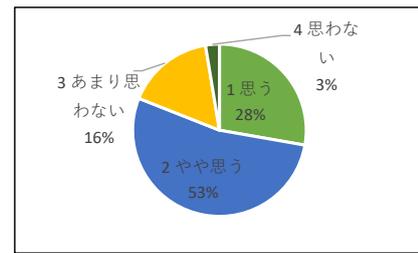
Q6-4	理論的に思考し判断する力（国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力）を身につけている	集計	
1	思う	184	27.9%
2	やや思う	359	54.5%
3	あまり思わない	98	14.9%
4	思わない	18	2.7%
総計		659	100.0%



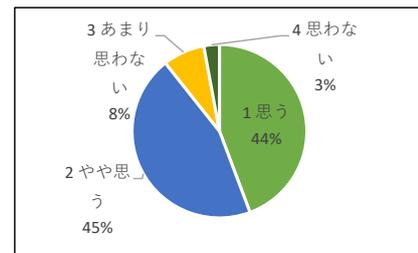
Q6-5	対立する価値を調整し、他者と協働する力（自己の意見を適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見に傾聴し、議論や協働により問題解決を行う力）を身につけている	集計	
1	思う	230	34.9%
2	やや思う	355	53.9%
3	あまり思わない	61	9.3%
4	思わない	13	2.0%
総計		659	100.0%



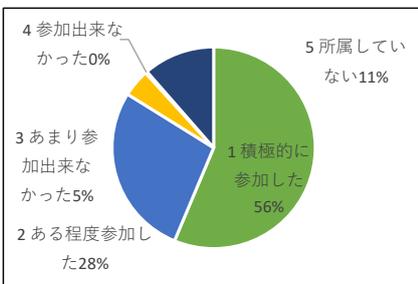
Q6-6	生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力を身につけている	集計	
1	思う	183	27.8%
2	やや思う	351	53.3%
3	あまり思わない	108	16.4%
4	思わない	17	2.6%
総計		659	100.0%



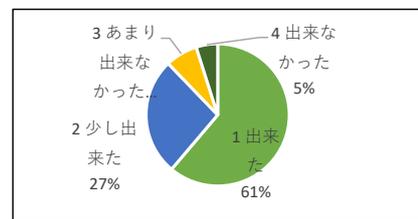
Q6-7	社会の一員としての強い責任感、使命感、モラルをもち適切に行動できる力を身につけている	集計	
1	思う	292	44.3%
2	やや思う	297	45.1%
3	あまり思わない	51	7.7%
4	思わない	19	2.9%
総計		659	100.0%



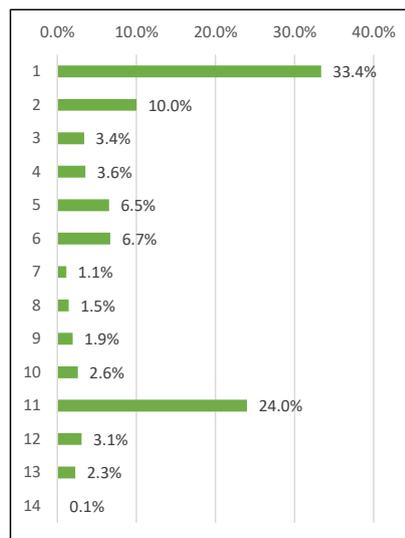
Q7	あなたのゼミの活動について教えてください。	集計	
1	積極的に参加した	371	56.3%
2	ある程度参加した	182	27.6%
3	あまり参加出来なかった	29	4.4%
4	参加出来なかった	2	0.3%
5	所属していない	75	11.4%
総計		659	100.0%



Q8	大学生活の中で、卒業後にも交流でき、助け合えるような仲間が出来ましたか	集計	
1	出来た	403	61.2%
2	少し出来た	176	26.7%
3	あまり出来なかった	48	7.3%
4	出来なかった	32	4.9%
総計		659	100.0%

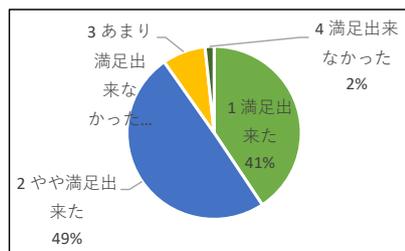


Q9	あなたが大学4年間で特に力をいれて取り組んだことは何ですか（※2つまで選択可）	集計	
1	学部学科の勉強（ゼミの活動含む）	413	33.4%
2	資格試験の勉強	124	10.0%
3	その他の勉強	42	3.4%
4	文連所属団体の活動	44	3.6%
5	体連所属団体の活動	81	6.5%
6	サークルの活動	83	6.7%
7	上記4～6以外の学生自治会	14	1.1%
8	学部学科内の委員会等のコミュニティ	18	1.5%
9	その他の大学内のコミュニティ	24	1.9%
10	ボランティア活動	32	2.6%
11	アルバイト	297	24.0%
12	学外のコミュニティ等	38	3.1%
13	上記以外	28	2.3%
14	回答なし	1	0.1%
総計		1238	100.0%

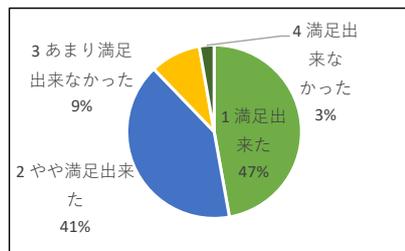


※Q10「Q9で《13.上記以外》を選んだ方は、その内容についてお答えください」の回答は自由記述の為、掲載なし。

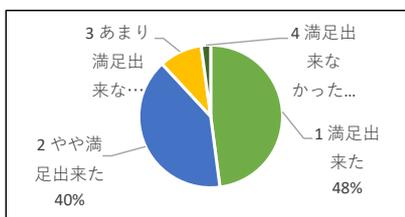
Q11	教育環境（教室、講義室、PC教室など）に満足出来ましたか。	集計	
1	満足出来た	268	40.7%
2	やや満足出来た	327	49.6%
3	あまり満足出来なかった	53	8.0%
4	満足出来なかった	11	1.7%
総計		659	100.0%



Q12	施設（食堂、図書館、多目的グラウンド、M Lodge、菅平セミナーハウスなど）に満足出来ましたか。	集計	
1	満足出来た	311	47.2%
2	やや満足出来た	268	40.7%
3	あまり満足出来なかった	62	9.4%
4	満足出来なかった	18	2.7%
総計		659	100.0%



Q13	設備（学バス、各種証明書自動発行機、DBポータルなど）に満足出来ましたか。	集計	
1	満足出来た	316	48.0%
2	やや満足出来た	265	40.2%
3	あまり満足出来なかった	64	9.7%
4	満足出来なかった	14	2.1%
総計		659	100.0%



※Q14「本学の新型コロナウイルスに関する対応について意見がありましたら自由にお答えください」、Q15「本学の良かった所、改善すべき所などを教えてください」の回答は、自由記述の為掲載なし。

2020（令和3）年度
各学部・学科・研究科
FD活動報告

今年度、文学部では、6学科がそれぞれに学科としてFD活動を実施した（各学科の活動報告書を参照）。また、これとは別に、下記のとおり、文学部の全教職員を対象としたFD研究会を、対面とオンライン・ライブ配信形式（Zoomを利用）の併用で開催し、60数名の参加者を得た。新型コロナウイルス感染症の蔓延が続く中での時宜を得たテーマであったため、例年度にない関心を集めた研究会であった。

記

■2021年3月12日（金）16:00～18:00

■2020年度文学部FD研究会

テーマ オンライン授業の対応について

- 発表者 ①教育学科 教授 石渕 聡「Zoomによるダンスの実技授業と成果発表」
②日本文学科 准教授 木村陽子「試行錯誤のオンライン授業の紹介」
③中国文学科 特認准教授 宮崎潤一「オンライン授業の対応について」
④英米文学科 講師 日野原 慶「オンライン×英語/英語文学、そのメリット・デメリット」
⑤書道学科 教授 河内利治「書道学科1年生必修科目「書道学概論1・2」」
⑥歴史文化学科 教授 武藤慎一「Zoomによらない同時双方向的授業の試み」

内 容 文学部の6学科から、1名ずつ報告者が選出され、上記のようなタイトルで報告を行った。各報告とも、それぞれの教員が工夫を重ねて授業を学生に提供していたことがよくわかる内容で、他の教員にとっても、今後のオンライン授業の参考になると好評であった。オンラインのメリットやデメリットが一定程度洗い出されたという点でも有益な研究会であった。

私たち専任教員は、とりあえずManabaを使いこなせばそれでよいのだが、各学科の授業を支えている非常勤講師の方々は、授業を担当しているそれぞれの大学において、様々なクラウド型教育支援システムを使うため、なかなかManabaに慣れることが出来なかったという貴重な声も届けられた。社会状況が好転しない限り、まだまだオンライン授業は継続すると思われるので、今回のような研究会は繰り返し実施する必要があると思われる。

以上

◆要旨

方 式： オンデマンド視聴方式

期 間： 2021/3/4（木）～11（木）23:59 まで

テーマ： 「初年次教育の位置づけ」（映像 約 43 分）

発表者： 木村陽子（日本文学科 准教授）

内 容： 「教育の質保証」という観点からの〈初年次教育〉の位置づけについての研究会を開催した。具体的には、日本の大学における初年次教育導入の歴史的経緯、〈初年次教育〉という分野の中で扱われるテーマ、他大学における〈初年次教育〉の事例、本学科での〈初年次教育〉の取り組み例について確認・紹介する発表内容であった。実施方法としては、各自で動画を視聴後、Google Forms を使用したオンラインアンケートに回答、後日、学科会議でアンケート結果を相互確認し、この課題に対する理解を深めるに至った。また、次年度以降のFD研修で自身が学びたいテーマや講師として担当可能なテーマについても回答してもらったことで、「FD」に対する学科教員間の関心理解を把握する機会ともなった。（下記、オンラインアンケートの回答参照）

参加者： 13 名

以上

◆オンラインアンケートの回答（日本文学科FD委員会集計）

1. 本日のFD報告会へのご意見・ご感想など

12 件の回答

日本の大学における初年次教育の有り様の歴史的経緯から始まり、現在における初年次教育の他大学での取り組み、さらに大東の日文におけるそのありようと問題点に至るまで、コンパクトにわかりやすくまとめであり、勉強になった。

これまでのAP・CP・DPは皆、やや具体性に欠けると感じていました。教員採用試験合格を主眼として大東日文の学士力のあり方を再考するコンセプト、良いと思います！
22:00辺りの、「その名もずばりスタディ・スキルズ！」は、もし慶応の書名を指すのなら「アカデミック・スキルズ」かと思われます。

お疲れ様でした。大変わかりやすい講義で、勉強になりました。初年次教育についての現在までの流れやその趣旨、目的、さらには他大学の取り組みなど広い視点から取り上げていたので、とても参考になりました。
一点だけ。BGMはない方がありがたかったです。私は、音楽が好きなので、ついメロディーやハーモニーに注意がいくってしまうので、集中しにくかったです。

たいへん参考になりました。

初年時教育についての詳細なご発表、大変勉強になりました。
印象に残ったのは、北海道大学の事例です。
大学全体のカリキュラム再編が求められていると感じました。
現状においては、日文では、資格の取得をどのように採用試験の合格に結びつけていくのかという点に問題があるように思います。
1年生と教職課程センターをつなぐ手立てを考える必要があるでしょう。
ご尽力に感謝申し上げます。

初年次教育に対する理解が深まり、大変有益だった。

まず、たいへん勉強になりました。また、初年次教育について、頭の整理ができました。ありがとうございました。

学士力の保証は、これからの重要なテーマですが、それは学生のためであることはもちろんですが、大学の力にも直結します。先生がご提案された資格の取得を学びの動機付けにする案は賛成です。その上で、資格取得に興味のない学生をどうするかも、検討しなければならないと思いました。

※パソコンからアクセスできなかったので、スマホで見ました。

・初年次教育の定義が明確になって（そして曖昧なまま用いられていることが多いことが分かって）とても参考になった。

・一昔前の「教養課程」と初年次教育・リメディアル教育などとの差異がどのような点にあるのか気になった。

よかった。後につづく人がたいへん。

非常に啓蒙されることが多く、見事に整理された諸事情の俯瞰的な展開はさることながら、私たちの大学の学部学科特有の状況を的確に把握した上での明敏な意見提出がなされ、併せて現代の教育への建設的な示唆に富んだ、大変すばらしいプレゼンテーションでした。

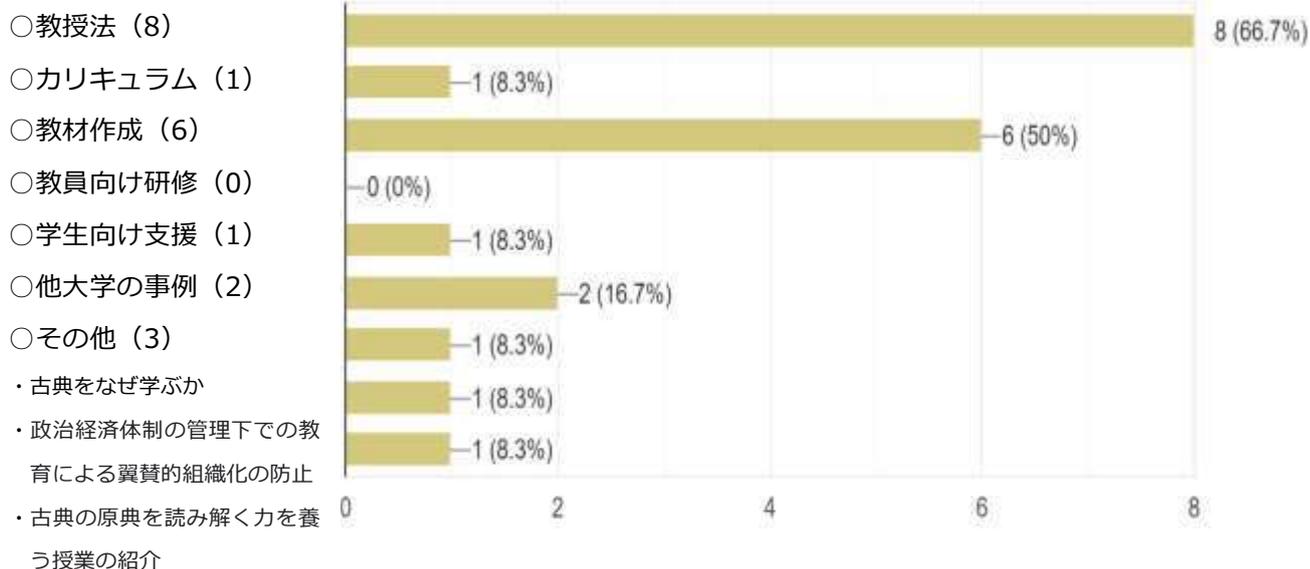
「初年次教育」について、この概念をとりまくコンテキストとともに非常に分かりやすくご説明いただいたおかげで、大変よく理解できました。

「初年次教育」について、この概念をとりまくコンテキストとともに非常に分かりやすくご説明いただいたおかげで、大変よく理解できました。特に「リメディアル教育」との関係について興味深く拝聴しました。お忙しいなか、示唆に富むご発表をありがとうございました。

AP・CP・DP、というのを、やる側はこういうつもりでやっている、ということ、学生側にもよくよくわかってもらう必要があります。リメディアル、やはり必要でしょうか。モデルとする西洋とは、この辺は事情が異なりましよう。そうしないと立ち行きませんもの（本学は学生のレベルがピン〜キリというタイプ。リメディアルまで抱え込むとなると、どこに照準を合わせるか）。大学生としてのレベルというより、行くところがなくて大学へ放り込まれた、というような現実問題。これを言い出すと、身もふたもないが。北大は、発想の原点は教養課程復活？ 新年度、基礎演習 TEXT 委員なのですが、何かアクションを考えるべきでしょうか。昔話ですが、日文の現行カリの発想の根本は、単に「演習」科目を中心、柱に据える、というものでした。25年程前のことです。古典=いにしえに生き方や魂（精神）のよりどころを求める、というのは、学士力のうちに入るのかしら。

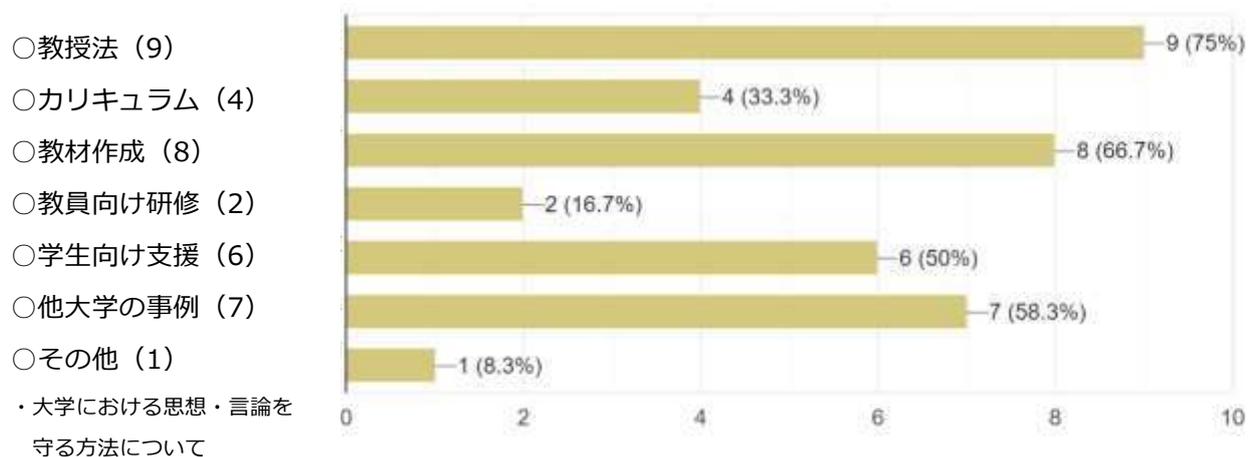
2. 来年度以降、学科 FD 講師をお願いする際、ご担当可能なテーマはどれでしょうか？
 (複数回答可)

12 件の回答



3. 来年度以降、ご自身が学んでみたいと思われるテーマはどれでしょうか？ (複数回答可)

12 件の回答



開催日時：2021年2月18日（木）13:00～14:00

開催場所：ZOOMによるオンラインライブ開催

テーマ：オンライン授業の対応について

発表者：宮崎潤一（中国文学科 特任准教授）

司会進行：小塚由博（中国文学科 准教授）

内容：報告：宮崎潤一先生「オンライン授業の対応について」

宮崎先生より、コロナ禍において、対面方式とオンライン方式（同時双方向、オンデマンド）両方によって授業を行った際の、学生と教員の体験と感想の一端を提示し、そのメリットとデメリット等についてお話いただいた。

その後に行われた質疑応答およびディスカッションでは、より具体的な状況に関する質問や、質問者自身の体験等が披露され、コロナ禍が続く新学期に向けて活発な意見が寄せられた。

終了後に行ったアンケートでも、様々な意見が寄せられた。

参加者：10名

以上

2020（令和3）年度FD活動報告書

文学部 英米文学科

開催日時： 2021年2月17日（水曜日）～2月28日（水曜日）

開催場所： オンラインによる報告書の提出と共有

テーマ： オンライン授業の反省と活用

報告： 学科全教員

取りまとめ： 日野原慶

内容：

- ①2020年度、自身が行ったオンライン授業の上手くいったと考える点。
- ②上手くいかなかったと考える点。何が足りず上手くいかなかったか。
- ③今年度試したことで、今後の対面授業／部分的なオンライン授業に活かせると考える点は何か。

これらの問いに答える形で、各教員が報告書を提出。それを一つの文書に取りまとめ共有。この形で対面を避けつつオンラインでのFD活動を行った。

参加者： 13名

以上

- 開催日時： 2021年2月22日(月) 13時15分～14時45分
- 開催場所： zoom meeting
- 参加者数： 20名（23名中 ※教職課程センター専任教員含まず）
- テーマ： 「私のオンライン授業」
- 発表者： 山中吾郎・松田洋介・深見友紀子
- 司会進行： 深見友紀子
- 内容：

★山中吾郎

私のオンライン授業・その1 ～わかりやすく、おもしろく、ちょっとやる気が出ることを願って～

- ・パワーポイントを使って制作したオンデマンド授業動画の内容
- ・オンデマンド動画配信において工夫した点、今後の課題
- ・オンライン授業経験から見えてきたもの等

★松田洋介

私のオンライン授業・その2 ～ラジオ番組をめざしたもの…～

- ・オンデマンド授業音声＝ラジオ番組(エピソードトーク)の構成とその内容
- ・学生への課題の出し方(学生はラジオネーム使用)
- ・ラジオ番組風の講義の効果と問題点

★深見友紀子

私のオンライン授業・その3

～楽譜が読めない学生を減らせるか manaba 小テスト機能とオンデマンド教材の活用～

- ・manaba 小テストの内容
- ・manaba 小テストの教育効果（本学・神戸女子大学）
- ・前期の授業用に作ったオンデマンド教材のウェブページ化
→ <http://www.ongakukyouiku.com/manaba/>

- 当日のFD報告会の様子（zoom録画）：<https://youtu.be/FTp3ZfwJikI>

- 質疑応答・協議内容：

manaba コースニュースの活用について／manaba 小テストの活用について／レポート期間外提出について／次年度の manaba 同科目にコンテンツを移行する方法について／パワーポイント等の資料の事前提示について／動画のデータ量について（大多数の学生は問題なく動画を視聴している）／著作権の問題（音楽・絵本等）について／パワーポイントの画面切り替え方法について／オンラインであっても学生の交流ができる場面づくりの必要性について／対面とオンラインとのハイブリットの可能性追求について／フェイスシールドの活用について

- 成果：

以上のように、3名の教員による取り組み事例の発表のあと、各システムやコンテンツの操作確認、有効活用方法について活発な質疑応答と議論が行われ、オンライン体制下でも対面形式に劣らぬ魅力的な授業づくり（学生と共につくりあげる授業）の手法について、その可能性の追及含めて学科内で理解を深めた。

以上

開催日時： 2021年2月16日（火）16:15～16:40

開催場所： 板橋校舎（遠隔 zoom）

テーマ： オンライン授業の対応について－書道学科1年生必修科目「書道学概論1・2」－

発表者： 河内利治

司会進行： 歳森芳樹（主任）

内容： 私は Zoom を使用して、リアルタイムで行う「同時双方向型」を選択した。オンライン授業であっても、昨年度まで対面授業で行ってきた時と同じように対応したいと考えたからである。ただし、それが可能であったのは、通勤時間（東松山校舎往復180分）がなくなったことによる余裕があった点は否めない。とはいえ6コマの授業準備、授業後の動画配信、欠席者へのフォロー、提出レポート添削と返却、個別メール質問への返信が毎日のようにあり、これらすべてを manaba と Google ドライブへアップロードする作業が土日も関係なく行う日々が続いた。プラス思考で言い換えるならば、自身の授業に取り組む姿勢を否応なく改善してきたことになったと率直に感じる。「学生授業評価アンケート」（授業評価値はこれまでの対面授業とほぼ変わらない結果）および「1年間を振り返って」レポートに見るように、オンライン授業にはオンライン授業の良さがあることが判明した。コロナ禍の現状では、オンライン授業による**学生の学修意欲＝「心」**を如何に保つかが最大の課題であることも判明した。新年度に対面授業に戻る上では、この学生の「心」の課題への解決策を講じなければなるまい。そのためには本学全教職員が叡智を結集し、できる限り早期に在校生および新入生に向けて「心のこもった」メッセージを発信することが肝要である。

（以下 Pdf 資料）

学生による授業評価アンケート（12月）

学生授業評価アンケートへの「コメント」（学生へ通知）

書道学概論1（前期）授業内容・レポートの見本

書道学概論2（後期）第1回9月22日ガイダンス・夏休み課題レポート発表日予告

引用資料：学生レポート「1年間を振り返って」

オンライン授業の対応について（学生レポートマイナス意見・感想まとめ）

オンライン授業の対応について（学生レポートプラス意見・感想まとめ）

「1年間を振り返って」（ある学生への返信に加筆）

まとめ：オンライン授業の対応について

（参考）引用資料13名学生レポート原文

参加者：9名

以上

今年度、初めての試みとして文学部歴史文化学科では、FD研究会を開催した。今年度の研究会のテーマとしては、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴って導入したオンライン授業の実施を前提として、歴史文化学科の専任教員がそれぞれにその経験を語り、その内容に基づいて意見交換を実施してもよかったのであるが、文学部のFD研究会がそのようなテーマの下で開催されることになったため、私たち歴史文化学科のFD研究会は、これとは別のテーマを設定した。

すなわち、私たちの学生教育の前提には、それぞれが日常的に取り組んでいる調査・研究活動があることは言うまでもないが、この1年間は、各自が自宅からのオンライン授業を実施していたため日常的に顔を合わせることもなく、私たちが現在、どのような調査・研究を実施しているのかを互いに語り合うような時間を取ることも出来なかった。今後私たちが卒業論文の指導をはじめとして、日々学生たちの様々な興味・関心に対応するためには、こうした私たち自身の現在の調査・研究活動を相互に知る機会を持つことは大変重要ではないかと考え、今回のFD研究会のテーマとした。

記

■ 2021年2月16日（火）15：30～16：50

■ 2020年度文学部歴史文化学科FD研究会

テーマ 現在取り組んでいる調査・研究について

発表者 歴史文化学科所属の教員8名（下記参照）

内 容 ①大野 新 特任教授

…地域の変容を社会科教育に活かす研究の一環として、高知県馬路村と徳島県上勝町における取材の報告。馬路村のゆずによる地域おこしや上勝町のゼロウェイトミッションは地理教育や観光教育に活かすことが期待できる。

②宮瀧交二 教授

…日本近現代史、とりわけアジア・太平洋戦争下の民衆意識を知るための格好の手掛かりとして、当時の駅弁の掛紙という身近な資料の検討を進めている。こうした資料は、観光史の資料としても貴重である。

③野瀬元子 准教授

…「旅行業・観光事業の現状と課題研究」に関して、旅行者の評価特性分析、地域における観光の変遷・地域形成史では、日光・中禅寺の避暑生活を外交官交遊録・日記（明治期）の分析を通じて進めている。

④久住真也 教授

…幕末の将軍上洛を描いた膨大な数の錦絵を、浮世絵研究のためだけではなく、幕末期の江戸社会を取り巻く環境、政治に対する広範な人々の見方や願望を示す貴重な史料として、歴史学研究に活用してゆきたい。

⑤湯城吉信

…清末の絵入り新聞に科挙関連記事が多数見えることを指摘した。これらは科挙の様子を如実に確認できる史料であり、随時紹介していきたい。その他、浅間山噴火を扱った史料を紹介し、教材として価値があることを指摘した。

⑥落合義明

…日本中世史、とりわけ武士の本拠を探るための手掛かりとして、地域(本拠)を荘厳するモノという視点から、梵鐘(の銘文)とその移動に着目して研究を進めている。こうした研究は、新たな中世地域史像を構築する手法と自負している。あわせて、以上の成果を授業においても漸次還元していきたいと思っている。

⑦池本今日子

…17世紀ロシアの英雄ミーニンとポジャルスキー公の表象と大聖堂の建築様式の変化について、19世紀の政治・社会史と関連させて検討している。

⑧武藤慎一

…新規開講の「シルクロード史研究A」は、前近代の地中海世界と中国の間の広範囲を扱うが、うち中世・中央アジアが未研究だったため、この度トルコ・キリスト教思想を新出土テュルク語原典によって明らかにし、研究史上の欠けを補った。

以上

■日時：2020（平成30）年9月18日（金）13:30～14:10

■場所：板橋校舎 10102 教室

■出席者数：教員 35 名、職員 4 名

■経済学部・経済学研究科 FD 研究会（学部・研究科共催）

■テーマ：2020 年度前期の遠隔授業に関する各種アンケート結果の報告と今後の遠隔授業運営に関する情報共有

■発表者：大東文化大学経済学部 神谷諭一

■内容：

2020 年度前期は遠隔授業であったので、遠隔授業に関して気づいたこと、学生の様子で気づいたこと、遠隔授業の利点不利点、manaba や DBportal などシステムに関することについて、経済学部 FD 委員会より教員へアンケート（以下「学部アンケート」と略す）が行われた。一方、全学 FD 委員会より学生へ向けて行ったアンケート（以下「全学アンケート」と略す）の結果もあった。

そこで、学部アンケートと全学アンケートの結果を照らし合わせながら、

- (ア)遠隔授業という制約のもとで、多くの教員は多大な努力をしたと推測されること。遠隔授業運営に対する教員の負担は大きいということ、
 - (イ)遠隔授業に不満をもっている学生は多いと推測されること、
 - (ウ)遠隔授業自体や、遠隔授業における課題の量が多いことによる学生の疲弊が推測されること、
- などが報告された。

アンケート結果を踏まえ、発表者の意見として、

- (ア)資料配布型のオンデマンド授業においては、授業運営を manaba に統一したほうがよいこと、
 - (イ)課題の量や課題を公開するタイミングなどについて、教員から学生へ、学期の最初の時点で明確に示しておく必要があること、
 - (ウ)遠隔授業の運営と内容について改善する必要があること、
- が示された。

FD 研究会参加者から、

- (ア) 2020 年度後期は完全な遠隔授業ではなく、一部対面授業も入ってくるので、対面授業と遠隔授業の混在に関する配慮が必要である、
- などの意見があった。

以上

■ 外国語学部FD研究会

テーマ： オンライン教育に関する情報交換

実施日時： 年間を通して、manaba のコースを開設、アクセスは随時。

概要： 2020 年度はコロナ禍のため、年間を通じて、多くの授業をオンラインで実施せざるをえなくなった。多くの教員がオンライン授業には不慣れであり、オンライン授業の質の向上を目的として、教職員の情報交換の場として、manaba の「掲示板」機能を活用し、主に外国語学部の教員を対象としたコース「遠隔授業 Q&A」を開設した。

参加者（コース登録者）は学部の全専任教員、全非常勤教員、学部事務室の全職員である。これに加えて、他学部の教員 17 名の参加もあり、活潑な意見交換、情報交換が行われた。

質疑応答の内容は、manaba、zoom、google drive 等のツールの基本的な使用法から効果的な活用法、オンデマンド教材の作成、教科書の扱い方、学生への対応など、多岐にわたり、より質の高い授業を展開するために、各教員の授業の工夫に資するところ大であった。

以上

2021年3月3日（水） 第1回法律学科FD研究会開催

テーマ：「オンライン授業の総括と展望」

発表者：山本紘之教授（法学部法律学科）

内 容：本研究会においては、2020年度に実施されたオンライン授業の総括を行った上で、今後の課題について検討した。

まず、オンライン授業においては、課題型授業、録音または動画配信（オンデマンド授業）型および同時配信型（リアルタイム）授業といった形態が行われたが、それぞれの長短について報告と議論がなされた。課題型講義は課題の多さ、学生へのフィードバックの難しさという点が大きな課題として喧伝されているものの、教員のICTスキルによっては選択肢の一つとはなりうること、提出課題の添削等を行うことによってフィードバックは可能であることが確認された。次に、他大学で公表されているアンケートなどにおいては同時配信型の学生満足度が高いと思われるが、オンデマンド型授業は繰り返し視聴できるなどの利点もあるという話題提供がなされた。

2021年度は対面授業の再開が予定されているが、法律学科の科目においては、100名規模の講義科目が少なく、隔週入替制を予定している講義が少なからず見受けられる。上記のようなオンライン授業の総括を踏まえ、自宅で学習する学生への対応が次に検討された。

第一に、隔週入替のためのグルーピングについて話題提供がなされた。これについては、履修者数が容易に予測できる必修科目であれば格別、そうでない場合は、最終的なグルーピングは初回授業を待たざるをえないこと、しかしそうであったとしても、グルーピングの方針は定めておいたほうが学生の便宜にもなることが確認され、学科主任がグルーピングの方針を策定・周知することとなった。

第二に、隔週入替制において登校しない回における学生対応についての話題提供がなされた。これはオンライン授業の延長線上にあり、課題を課す、講義録音などをオンデマンド教材として配信することなどがありうる旨が確認された。

第三に、隔週入替制における授業の進捗についての話題提供がなされた。グループごとに同じ講義を行う方式を採る場合、教員が直接講義を行うことができる回数は総講義回数の半分となるため、要点を絞って講義し、応用問題はオンデマンド教材でフォローするほか、リアル講義で扱う単元とオンデマンド教材でフォローする単元に分ける方法もありうる旨が指摘された。

以上

2020年9月30日（水） 政治学科FD研究会開催（参加者 13名）

テーマ1：前期「政治学A」実施報告

発表者：「政治学A」担当者

（武田知己教授・萩原稔教授・坂部真理教授・中根一貴准教授・岡田拓也講師）

内容：「政治学」の各クラス担当からの授業実施報告に基づき、全参加者の間で問題意識を共有し、授業の質のさらなる向上に向けての議論をおこなった。

テーマ2：前期オンライン授業に関するアンケート調査結果の報告

発表者：平尾淳一教授

内容：政治学科の全学生を対象にしたオンライン授業に関するアンケート調査の結果が報告された。これにもとづき参加者間で活発な議論を行い、後期に向けて学生ケアの方策を打ち出した。

テーマ3：将来計画

発表者：中根一貴准教授

内容：教員定数削減との関係で補充を見合わせている「比較政治学」の担当者採用に関する提案がなされ、これに関連して学科の将来のあり方について議論がなされた。

テーマ4：「政治学インターンシップ」実施状況および今後の展望

発表者：「政治学インターンシップ」担当者

（岩橋俊哉教授・武田知己教授・中根一貴准教授・藤井誠一郎准教授）

内容：「政治学インターンシップ」（現地研修型）の実施状況の報告が各担当者からなされた。感染症拡大という今年度に固有の状況に対する対応とともに、次年度以降学科の柱として位置づけるべく、その実施に向けての課題が議論された。

以上

第1回 国際関係学部 FD 研修会

2020年4月15日（水） テーマ「学生が登校しない形式の授業とは？」

1) 本学が目指す「学生が登校しない形式の授業」とは

発表者：岡本信広（国際関係学科主任）

2) 講演「非同期型を中心にしたオンライン授業」

発表者：藤本かおる准教授（武蔵野大学グローバル学部）

Covid-19のまん延により、2020年度は最初からオンライン授業で実施することが全学で決定された。それを受けて初めての経験に多くの教員が戸惑いを覚えたため、オンライン授業を先行して行っている大学から講師を招聘し、オンライン授業のやり方に関する学習会を行った。オンライン授業にあたっては、本学は「学生が登校しない形式の授業」ということから、その点（manabaの活用）を重点的に議論した。

また本FD研修会は他学部にも開放し、また本学部の非常勤講師にも門戸を開き、オンライン授業のやり方について理解を深めた。

第2回 国際関係学部 FD 研修会

4月21日（火） テーマ「DB manaba その他補助ツールの利用法」

1) Meet の活用

発表者：岡本信広国際関係学科主任

2) 講演「manabaを使ったオンライン授業の例」

発表者：白井康之学園総合情報センター所長／経営学科教授

第2回目のFD研修会は、オンライン授業において、本学のmanabaをどう活用するかという観点から経営学部教授の白井先生を招いた。manabaの容量制限という本学独自のシステム利用を念頭に、動画の取り方、動画ファイルのアップロードの仕方などをご紹介いただいた。白井先生は、学園総合情報センター所長でもあるため、実際の本学システム利用に関して学部内の教員の理解はかなり深まったと思う。

本研修会も他学部に開放し、学部の非常勤講師にも案内をし、多くの教員のオンライン授業のスタートに貢献できたと思う。

以上

2021年1月12日（火） 第1回 経営学部・経営学研究科FD研修会

テーマ「コロナ対応下の授業の工夫に関する意見交換」

講師：経営学部・経営学研究科教員（松崎・ウィリアムソン・五十嵐 他）

場所：板橋校舎1号館102教室+Zoom遠隔 併用

時間：14:30～15:40

参加者：29名（経営学部・経営学研究科教員27名，学部事務室2名）

【内容】

2020年度は、新型コロナウイルス対応のために、授業運営において各教員がさまざまな工夫を図るよう迫られた。その経験から各人が得た知見は、学部内で共有し情報交換・意見交換を図る価値が大いにある。本学では、前期中に得られた授業の工夫に関する知見が9月の全学FD研究会で全学的に共有されたが、学部・研究科内でさらに意見交換を重ねることはさらなる深耕につながるだろう。そこで、今年度のFD研修会では、コロナ対応下の授業の工夫について経営学部（経営学科）ないし経営学研究科に属する複数教員からの話題提供を踏まえ、教員同士が相互に意見交換をはかる研修会を企画した。

本年度のFD研修会は、緊急事態宣言下で依然懸念される新型コロナウイルスの感染リスクを低減するために、会場+Zoom併用の形態とした。学生・院生の参加は求めなかった。学部専任教員（大学院担当専任教員は全員ここに含まれる）34名中27名が出席し、学部担当事務職員2名の参加も得られた。

話題提供者として、松崎教授（大教室講義・基礎教育科目「心理学」（約300人）ほか）、五十嵐准教授（大教室講義・専門科目「マーケティング総論AB」（約190人）ほか）、ウィリアムソン講師（語学演習「英語AB」（約25人）ほか）が、それぞれの授業で行った工夫について紹介した。

松崎教授からはmanaba等での小テストの工夫など、五十嵐准教授からはmanaba掲示板活用の工夫など、ウィリアムソン講師からはZoomを用いた授業の工夫など、が紹介された。

その後、会場全体での質問や意見交換が行われた。とりわけ、少人数の演習型の授業で積極的な学生参加を促すやり方について活発に意見が交わされ、予定時間を超過するほどであった。

研修会の中では統一的な結論をみるには至らなかったが、ここでの議論の内容は、各教員が消化して、それぞれの担当授業にあわせて、新年度授業計画の策定や運営準備を進める際のヒントとなろう。また、演習型授業での工夫について教員同士がフランクに意見を交換できたことは、多くの教員が担当している学部の演習授業や1年生必修科目「基礎演習」、大学院科目にも示唆を与えるものとなろう。

意見交換の場では、授業運営サポートにあたって事務職員が普段から感じていることも話題の俎上に載せたかったが、時間の都合により割愛せざるを得なかった。とはいえ、研修会終了後も教員同士で相談しあう様子も見られたように、学部・大学院の教育活動に携わる教職員が授業運営について忌憚なく意見交換をする場を持ったことはたいへん有意義であったと思われる。

以上

今年度本学部は、以下に示したとおりFD活動として教育・研究ワークショップを実施した。

第1回 教育・研究ワークショップ

- ・テーマ： 「後期オンライン授業の実施に向けて」
- ・発表者： 塚本正文 准教授
- ・開催日時： 2020年9月24日（木）15：00～
- ・開催方法： Zoom
- ・内容： 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、7月31日から8月4日にかけてインターネット上で、次環境創造学部と社会学部所属の専任・非常勤教員を対象とするオンライン授業の方法の実態（授業方法や教材の形式・配布方法、提出された課題に対する教員の対応、学生からの質問内容など）に関する調査と、3・4年生を対象としたオンライン授業の方法の実態に関する調査を実施した。発表者による調査の分析結果を共有し、今後のオンライン授業のあり方について議論した。

第2回 教育・研究ワークショップ

- ・テーマ： 「コロナ禍における卒業研究指導等について」
- ・問題提起者： 橋本みのり 准教授
- ・開催日時： 2020年12月10日（木）15：00～
- ・開催方法： Zoom
- ・内容： コロナ禍における卒業研究指導の状況や課題について情報交換および共有を行った。また、例年とは異なるかたちでの卒業研究の提出および卒業再試の実施等についても議論した。

2020年10月6日（金） スポーツ・健康科学部およびスポーツ・健康科学研究科合同開催
テーマ：「ヒトを対象とする研究全般における研究対象者への倫理的配慮の必要性」
演題①：「研究における倫理的配慮—インフォームド・コンセントを中心に」
発表者：實川 佐智恵（日本アспектコア株式会社：本学研究コーディネーター）
内 容：研究における倫理的配慮について、科学者の責務、公的研究費を活用して学術研究を進める研究者の責務を確認し、医学系以外の観点からも説明をうけた。ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言から始まり医学研究など自然科学の分野に限らず、人文・社会科学などの分野でも、心理学、社医学、教育や福祉、コミュニケーションが関わる研究も研究倫理の対象とされた。具体的には直接、人の体に接触しないインタビューやアンケートから得られるデータなどである。以上、本学部学科や研究科のみならず文科系領域における内容も踏み込んでおり、今後の本課題に対する理解をさらに深める重要な機会であった。

演題②：「ヒトを対象とする研究系研究に関する倫理審査申請書等の記載について」
発表者：高塚 弥（大東文化大学研究推進室東松山分室 主査）
内 容：倫理審査に関する変更点（2020）、つまり記載項目の明確化と審査前の研究倫理教育プログラム受講の必須化（APRINの受講）につき説明を受けた。これまでの審査で指摘された以下の点を解説された。①研究対象者に対するインフォームド・コンセント。②侵襲性のある方法によるデータ収集。③利害関係者（学生、教職員など）に対するアンケート調査。④不特定多数を対象とするインターネット上のアンケート。⑤個人情報適切な収集と管理等である。また、申請書類等の記載については専門外の委員も審査するため、難解な表現はさけて、テクニカルタームを使用する場合は説明を付することや共同研究の場合は研究者同士での再確認の必要性など多くの問題点が指摘された。参加者の大学院生はもちろん指導教官にとっても極めて有意義な講演会となった。研究倫理は日進月歩を辿っており、基本的な法的背景と現実の審査状況のギャップをどのように運営に生かしていくのか今後の課題ともなっている。

2020（令和3）年度FD活動報告書

スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科

2020年 9月8日（火） 第1回スポーツ・健康科学部スポーツ科学科FD研究会

テーマ：「後期オンライン授業に向けて」

場 所：オンライン（Zoom会議）

内 容：後期授業に関する情報について履修学生への提示方法を確認するとともに、前期オンライン授業アンケート結果の概要を共有した。また、前期オンライン授業の取り組み例として7授業を取り上げ、1) 授業実施方法、2) 課題の提示・回収方法、フィードバック等、3) 特に工夫した点、4) その他について紹介がなされ、質問、意見交換が活発に行われた。

2020年度FD活動報告書

スポーツ・健康科学部学部 健康科学科

2021年3月23日（火） スポーツ・健康科学部 健康科学科FD研究会（Zoomによる開催）

2020年度3月に開催予定であった健康科学のFD研究会がコロナ禍により急遽中止となった。未だ、コロナ禍が収まらない状況であるが、通信回線の整備が行われた事により第1回スポーツ・健康科学部 健康科学科のFD研究会を実施した。「スポーツ・健康科学部に期待するもの」-着任3年目を終えるにあたり-と言うテーマで健康科学科・特任教授 玉内秀一先生に、Zoomにて講演いただいた。

講演者がこれまで所属していた大学での教育活動の紹介を通じて、大東文化大学における教育環境、健康科学科のカリキュラム、さらには学科運営活動などについて問題点を提示し、他大学で後援者が実際にどのように活動を行って来たかを動画やパワーポイントを用いて具体的に講演いただいた。

テーマ：「スポーツ・健康科学部に期待するもの」

-着任3年目を終えるにあたり-

発表者：玉内 秀一 特任教授（スポーツ・健康科学部 健康科学科）

内 容：アクティブラーニングを大学教育の一つと掲げているけれども、学科としてどのような目的にどのようにアクティブラーニングに取り組んでいることかが明らかでないことが指摘され、多くの大学ではかなり以前からアクティブラーニングを通じて自ら問題を抽出し・解決するという形式の教育が低学年時より実施されていることが紹介された。現在、「健康と経済」と言うテーマについて健康科学特別演習の中でイオン銀行と異分野連携教育が実施されているが、今後健康科学科での、新カリキュラム改正後どのように展開されるのかと言う講演者からの問いが投げかけられた。また、学部間を超えた教育の展開などについてもグローバル教育上必要なことであるが大学としてどのような人材を育て社会に貢献していくかという点についても鮮明でないことも指摘された。健康科学科では、現在臨床検査系・栄養関係・一般就職との大きく3つにグループされているが、教員と学生の関わりに関して、全学生への関わり方に問題があるのではないかと指摘がなされ、どのような学生にも良い点があるのでその点を引き出せるように教育科目や関わりへもう少し関心をもつべきでないかと言う指摘もされた。

2020（令和3）年度FD活動報告書

スポーツ・健康科学学部 看護学科

2021年3月1日（月） 第1回看護学科FD研修会開催

テーマ：「看護師国家試験対策（教員向け）」

講師：浅沼ゼミ（浅沼 慶子講師）

内容概略：2021年度は本学科の第1期生が看護師国家試験を受験する。100%の合格を目指し教員向けの国家試験対策を開催した。

開催目的：『看護師国家試験対策に対峙する教員に向け、学生の特性ならびに特徴に応じた教授方法を深めると共に、昨今の看護師国家試験の動向を知る。』

内容：以下のプログラムにて開催した。

- 1) 近年の国家試験出題内容の特徴
- 2) 必修問題の特徴と攻略法
- 3) 一般問題・状況設定問題の出題傾向と正答テクニック教授の技
- 4) 戦略的年間スケジュールの立案方法
- 5) 学力停滞者への効果的介入法と介入評価
- 6) 保護者への対応の留意点

事後アンケートの結果から以下の回答を得られた。（回答率 97.3%）

- ・学生や保護者への具体的な支援方法まで知ることが出来てよかった。出題傾向など知らない知識を深めることが出来た。
- ・出題傾向が特に分かり易かったです。大変参考になりました。
- ・実践的に具体例を挙げながらの説明で理解が深まった。
- ・看護学士教育の教育方法論と国家試験を確実に合格させるための方法は明確に異なるため国試セミナー講師の手法を（否定はしないが）大学教員に求めるのではなく、機能的にすみわけのべきだと（以前から感じていたが）さらに実感させられる場面を目の当たりにした。
- ・国試に必要な範囲だけでなく、学生への学習方法の教授例をいくつかお教えいただいたので、とても具体的で参考になりました。今後の国試対策に活用させていただきたいと思います。

これらのアンケートより開催目的は概ね達成し、学生への指導の一助となったと考える。

今年度本学部は、以下に示したとおりFD活動として教育・研究ワークショップを実施した。

第1回：4月28日（火） 15時から16時半まで

会場：オンライン会議（ZOOM）

テーマ：オンライン授業の形態に関する整理と本学科の準備状況について

発表者：社会学部社会学科 スチュワート教授、上地准教授、塚本准教授、小野田専任講師、近藤専任講師、八木原専任講師

参加者：社会学部教授会構成員（所用欠席者を除く）、後日配信にて所用欠席者と非常勤教員も閲覧

当日のプログラム内容：

- 1、学科主任よりごあいさつ（開催の趣旨説明）
- 2、社会学科学生ネット・インフラ調査結果、オンライン授業の形態に関する整理 20min
+専任教員同士の意見交換 20min
- 3、演習授業の実例（zoomを活用した同期配信授業） 20min
- 4、講義授業の実例（manabaなどを活用した非同期配信授業） 20min
- 5、質疑応答 10min

本学科ではもともとPCを授業で利用できるよう全学生が準備することになっていたが、家庭での通信環境やカメラ・マイクの利用環境が整っているのか調査を行い、新型コロナウイルス下でのオンライン授業の配信形態を整理し検討した。学科所属の専任教員により、Zoomを用いた同期型配信授業のコンテンツ提供例と、ストリーミングを用いた非同期型配信授業のコンテンツ提供例を提示し、参加者が授業体験するハンズオンをおこなった。その後、全ての学科授業担当者が一定水準のコンテンツにて授業準備を進められるように、この1年間の授業提供方法について検討を行った。

第2回：8月27日（木）15時から17時まで

会場：オンライン会議（ZOOM）

テーマ：「前期のオンライン授業の総括と後期授業への対応について」

発表者：社会学部社会学科 馬場教授、野嶋特任教授、周東准教授、塚本准教授、八木原専任講師

参加者：社会学部教授会構成員19名

前回の議論を踏まえつつ、学部開設時に文部科学省に提出した届出類における当該事項内容を全員で確認し読み解き、授業におけるPC活用についての今後の方針を共有した

当日のプログラム内容：

- I. 学科主任による趣旨説明
- II. 教務委員会による基調報告
(学生と教員へのアンケート調査結果分析からを検討すべき項目の提示)
 1. 学生に対する課題の総量・期間は適当か

2. 講義系授業内で教員が示す資料・教材提示の方法について（「動画形式がわかりやすい」との学生の声を踏まえて）
 3. Live ビデオ授業中のカメラ利用マナー（カメラの on/off に関するルール制定など）
 4. 1 年生を対象とする zoom 交流会などの開催可能性について
 5. オンライン授業実施における非常勤教員の負荷軽減の方策について
- ・以上の 5 点が後期授業開始にあたり、授業担当者が確認すべき課題となる。

III. 各要検討項目に関する議論

1. 学生に対する課題の総量・期間
2. 講義系授業内で教員が示す資料・教材提示の方法
3. Live ビデオ授業中のカメラ利用マナー
4. 1 年生対象の zoom 交流会等の開催について
5. 非常勤教員への負荷軽減策について

本学科が独自に前期学期末に実施した社会学科授業アンケートの結果を踏まえて、1) 前期の社会学科講義・演習内でどのような授業が行われてきたか、2) 学生はそれをどのように受け止めたのか

といったことを報告し、参加者と状況を共有のうえ、前期の反省点と後期の授業展開について議論をおこなった。なお、前期の授業にて独自の展開方法を考案した教員から、配信授業のコンテンツ提供例を提示し、参加者が授業体験するハンズオンをおこなった。

教室授業に比して学生側の負担増や教員側の負担増といったことがあげられた他に、オンライン授業でのまだ確立されていないマナーの確認や学生同士の交流方法について検討を行った。

第1回経済学研究科FD研究会

■日時：2020年12月11日（金）研究科委員会終了後1時間程度

■場所：板橋校舎10102教室

■出席者数：教員18名、職員1名

■テーマ：「前期遠隔授業に関する大学院の意見集約」

■発表者：郡司大志（経済学部現代経済学科教授）

■内容：

2020年度前期末に全学で行われた「前期遠隔授業に関する各学部・学科での意見集約」から大学院担当教員の意見をまとめて報告した。授業のあり方、設備、学生とのコミュニケーション、ハラスメントの各項目について経済学研究科と他の研究科との回答を比較しながら紹介した。どの研究科も回答者ごとに意見が大きく分かれる傾向が見られたが、経済学研究科ではオンラインでの授業は概ねうまく行っているものの、学生間のコミュニケーションや授業のサポートが難しいという意見があった。

報告後は会場で議論を行った。オンラインでは宿題が多くなりがちであること、受講態度が受講生によって様々であることなど課題があがった一方で、オンラインでは院生と会話する機会を増やしたり、院生・研究生が気軽に交流できる機会を設けたりする必要があるなどの対応策も話し合われた。

■ 2021年1月18日（月）第1回外国語学研究科FD研究会開催

テーマ：Zoom ミーティングを利用した小規模シンポジウムの開催について
－中国言語文化学における実践例：問題点と課題－

発表者：大島 吉郎 教授（外国語学研究科中国言語文化学専攻）

内容：コロナ禍における小規模シンポジウムの開催をどう実現するか、Zoom ミーティング方式を用いた実践報告である。中国言語文化学専攻・中国語学科共催による第20回学術シンポジウム（2020年11月21日開催）では、発表者13名による中国語文法、中国音韻学、中国語教育三分野にまたがる研究発表が行われた。そのため、Zoom URL を2本設定し、第一部会：中国語文法、第二部会：中国音韻学・中国語教育とした。

1台のパソコンでは、二つの部会を同時に行き来することができず、一旦ミーティングを退室してもう一方のURL にアクセスする必要があるため、シンポジウムとしての一体感に欠ける結果になったことを指摘した。小規模シンポジウムであれば、Zoom のブレイクアウトルームを活用することで活発な議論が期待でき、所期の成果が得られるが、それにはホストのZoom に対する運用能力が求められることが基本条件であることを論じた。

併せて、中国言語文化学専攻における博士課程後期課程開設10年の歩みについて概略を述べた。

参加者人数：28名

以上